



Revival



2025-2026 年度 RI 会長メッセージ「よいことのために手を取りあおう」

GOVERNOR'S

Monthly Letter

JR 新千歳空港駅 New Chitose Airport Station



よいことのために
手を取りあおう

Rotary 



フランチェスコ・アレツォ RI 会長と。

国際ロータリー第 2510 地区 2025-2026 年度ガバナー 玉井 清治

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西 11 丁目 4 大通藤井ビル 7F

TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512 E-mail : rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

ガバナー月信 vol.11 目次

パストガバナーメッセージ



ロータリーは家庭から
国際ロータリー第 2510 地区
2002-2003 年度 ガバナー

パストガバナー
小林 博 (札幌北 RC)

IM 報告



第 12 グループ IM 報告
国際ロータリー第 2510 地区
2025-2026 年度
第 12 グループ ガバナー補佐

平田 幸彦 (苫小牧東 RC)



IM 報告



第 2 グループ IM 報告
国際ロータリー第 2510 地区
2025-2026 年度
第 2 グループ ガバナー補佐

沢田 広志 (砂川 RC)



地区 RYLA 委員会



第 23 回 RYLA セミナーを終えて
国際ロータリー第 2510 地区
地区 RYLA 委員会

委員長 **後藤 広隆**
(函館五稜郭 RC)

国際交流ワークショップ



国際交流ワークショップ in ながぬま
マオイ de モルック 2026
第 7 グループ

長沼ロータリークラブ 初代会長
清水 慧子

OTHER CONTENTS

- ガバナーメッセージ 1p
- ロータリーは家庭から 2p
- 第 2 グループ IM 報告 3p
- 第 12 グループ IM 報告 4p
- 第 23 回 RYLA セミナーを終えて 5p
- 国際交流ワークショップ in ながぬま
マオイ de モルック 2026 6p
- 新会員のご紹介
/4 月米山記念奨学会寄付・ロータリー財団寄付 7p
- ハイライトよねやま 8p
- コーディネーター NEWS 10p
- 4 月会員数・例会数報告 13p
- 地区カレンダー 6 月 14p
- 訃報 / ガバナー事務所からお願い 15p



今月の写真「新千歳空港駅」

北海道の空の玄関口・新千歳空港駅。

国内外から多くの人々が行き交うこの駅は、北海道の“出会い”と“交流”を支える重要な拠点です。近年は千歳地域の発展も著しく、活気あふれる当地区を象徴する存在として、多くの期待と可能性を感じさせてくれます。

撮影日 令和 4 年 5 月 26 日：玉井ガバナー



あと残すところ 1 ヶ月だからこそ

国際ロータリー第 2510 地区
2025-2026 年度 ガバナー

玉井 清治
(函館亀田 RC)

ロータリアンの皆様、日頃より地区運営に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

早いもので、ガバナーとしての任期も残すところ、あと 1 ヶ月となりました。

この一年、私は地区内クラブや IM 等グループを訪問させていただきながら、数え切れないほどの「感激」に出会わせていただきました。正直に申し上げますと、私は就任前、「会員減少」「高齢化」「例会出席率低下」など、全国的に言われている課題を前に、少なからず危機感を抱いておりました。しかし、実際に各クラブを訪問して感じたものは、決して“衰退”ではありませんでした。そこにあったのは、地域を想い、人を想い、そして仲間を大切にしながら、一生懸命にロータリーを続けている会員の皆様の姿でした。

あるクラブでは、新会員が緊張しながらも、一生懸命に「会長の時間」の感想を語っておりました。またあるクラブでは、長年在籍されている会員が、若い会員の発言を静かに見守りながら、「若い人が伸びるクラブになってきたな」と微笑んでおられました。私は、その光景を見ながら、改めて感じたのです。ロータリーとは、単なる奉仕団体ではない。

“人を育てる場所”なのだ。

さらに印象的だったのは、多くのクラブで「変化」を恐れず、前向きに挑戦しようとしている姿でした。

細則の見直し。

例会運営の工夫。

女性会員の増加。

若い世代へのアプローチ。

SNS を活用した公共イメージ向上。

オンライン活用による柔軟な参加環境。

どれも、決して簡単なことではありません。しかし、「今の時代に合ったロータリーをつくろう」という熱意が、各地から伝わってまいりました。

私は今年度、「REVIVAL 原点回帰」という活動指針を掲げました。それは単なる“昔に戻る”という意味ではありません。ロータリー 120 年の歴史の中で受け継がれてきた、「職業倫理」「友情」「奉仕」「信頼」という原点を大切にしながら、未来へ向かって再び力強く歩み始める！そんな意味を込めた言葉です。

実際、この一年で私は、多くの“復活の芽”を見せていただきました。

新会員が増え始めたクラブ。

例会の空気が明るく変わったクラブ。

会長の時間に理念を語るようになったクラブ。

地域との関係性が深まったクラブ。

若者が笑顔で参加している奉仕活動。

その一つひとつが、まさに「REVIVAL 原点回帰」そのものであったように思います。もちろん、課題が消えたわけではありません。しかし私は、地区内を回れば回るほど、「第 2510 地区には、まだまだ大きな可能性がある」と確信するようになりました。ロータリーは、完璧な人が集まる場所ではありません。悩みながらも、学びながらも、「少しでも地域のために」「少しでも誰かのために」と動こうとする人たちが集う場所です。だからこそ、温かい。だからこそ、人が育つ。そして私は、この一年を通して、改めて「クラブこそがロータリーの原点」であることを強く感じました。

RI があり、地区があるのではなく、最初にクラブがある。

地域に根ざし、その地域の文化や歴史、人とのつながりを大切にしながら活動しているクラブの姿こそ、ロータリーの本物の力なのだと思います。任期終了まで残りわずかとなりましたが、最後まで、皆様と共に歩ませていただいたと思っています。そして願わくば、この一年が、皆様それぞれにとって、「自分にとってのロータリーとは何か」を改めて考える機会になっていたなら、これほど嬉しいことはありません。これからも共に、原点を大切にしながら、新しい時代のロータリーを築いてまいりましょう。

心より感謝を込めて。



ロータリーは家庭から ROTARY BEGINS AT HOME

国際ロータリー第 2510 地区
2002-2003 年度 ガバナー

パストガバナー
小林 博
(札幌北 RC)

家庭愛などというと「今さら」と思う方もおられるかも知れませんが、「家庭」は我々の「寝食の場」であり、大半の人は家族の一員として生まれ育ち、家族の輪に見守られながら老い、やがてあの世に旅立っていくのです。

控え目な家内（非会員）が私にいつか「家庭を省みないでロータリーは何のためなのですか？」というのでした。ハッとしました。私はロータリーの「親睦と奉仕」を考えるばかりに、家庭への気遣いをつい疎かにしていたのかもしれないと気付いたのです。「各自の家庭・家族に対する感謝と人間愛に満ちた行動に努めることがロータリーの最大の優先事項でないのか。他人への奉仕はそれからと考えるのが人間感情の自然の流れではないか」ということに思い至ったのです。

国際ロータリー第 14 代会長を務められたガイ・ガンディカーさんが 1916 年に書かれた「A Talking Knowledge of Rotary」（「ロータリー通解」小堀憲助訳）という本を読み返してみました。このなかで「ロータリー活動の最良の場は『ホーム』（家庭）である。人は良きロータリアンたるがためには、その妻と子供達に真心を尽くさなければならない」。

「ロータリアンの愛の心を家庭だけでなく、業界にも広げるのがよい」ともいって、「家庭から始まる愛のこころ」の大切さを 100 年以上前にすではっきりと指摘されているのでした。

「家庭への思いやり」「家庭愛」こそがロータリー活動の「出発点」として「ロータリーは家庭から」ROTARY BEGINS AT HOME といって差し支えないと思うのです。

ROTARY BEGINS AT HOME

ロータリーは家庭から



第2グループIM報告

国際ロータリー第2510地区 2025-2026年度
第2グループガバナー補佐

沢田 広志 (砂川 RC)

4月25日(土) 砂川市地域交流センターゆうにおいて、砂川 RC 主催により「第2グループ都市連合会 (IM)」が開催されました。当日は、玉井清治ガバナーご夫妻をはじめ、嵯峨義輝パストガバナー、地区ラーニング委員会ファシリテーターの山口史朗・平川香織両名、西方洋昭、池田和陽、平田幸彦 3 名のガバナー補佐、吉川達也副代表幹事、番場優地区幹事を来賓としてお迎えし、第2グループ4クラブとロータリーアクトクラブ 121 名の登録をいただき盛会に開催することができました。



IMテーマは、「ロータリーの心と奉仕・・・繋がり

手を取り合い 未来へ踏み出そう」で、講演に気象予報士の『菅井貴子様』に「未来につながる気象最前線“連携”と“絆”で世界予報の精度も上がる」お話を頂きました。

講師より、天気予報は結構奥も深く、そして世界も広く、世界ぐるみで考えられています。日本のひまわり9号は、アジア太平洋各地域に画像を提供して、インフラのない島国などに観測機を設置し画像を役立てて下さいと、世界貢献しています。世界中は天気予報の分野でとても仲良しで、同じ時間に観測し、データを惜しみなく使い多くの国々が共有して、世界中の週間予報がなり立っております。例えば台風は国境なく来ます。上空の寒気もロシアから来ます。ロシアの観測データや中国の内陸のデータとか黄砂もそうですが、実況観測データがないと分からない、と言うそんな現状にあるので天気予報の分野は世界連携がとても上手くいっている。ただ情勢不安定な国の観測データがなく、世界平和でないと、天気の精度が下がってしまいます。

ガバナー講評より、講師から防災、異常気象、大雪、様々な将来の問題点が提起され、我々奉仕する団体として、しっかりと取り組まなければならないこと、ロータリーの視点より見たキーワードでは、「自己紹介の中で今の仕事が好きのお話」、「地域に愛している北海道が好き、だから私は北海道に来ましたお話」、「将来を的確に見て感じ取っていること」等、これらはロータリーに共通したものと講評を頂きました。

懇親会は、嵯峨パストガバナーよりご挨拶を頂戴し、会場を魅了した砂川ブラスタイルとキッズジャズスクールの演奏が披露され、最後には全員で「手に手つないで」の大合唱で懇親会を終え、楽しいIMを皆様より作って頂きました。

結びにご登録・出席された皆様の未来に向けたロータリー活動の「学び・気づき、繋がり」となることを願います。砂川 RC 並びに実行委員会の皆様に改めて感謝申し上げます。





第12グループIM報告

国際ロータリー第2510地区2025-2026年度
第12グループガバナー補佐

平田 幸彦 (苫小牧東 RC)

5月16日開催 第2510地区第12グループIM(都市連合会)が開催されました事の報告をさせていただきます。

苫小牧市長金澤俊様、第2510地区玉井清治ガバナー並びに優子令夫人、沢田広志第2グループガバナー補佐をご来賓としてご臨席頂きました事に深く感謝申し上げます。おかげさまで大変盛り上がったインターシティミーティングとなりました。

3部構成で企画させて頂きました。

1部では「welcome to 苫小牧!」と題してパネルディスカッションがステージ上にて6か国6名のパネラーの方に壇上にて、当会員であります北洋大学奥村訓代学長にファシリテーターとして進行を務めて頂きました。苫小牧市内で現在1900人程の外国人が生活されております。「多文化共生」をサブタイトルとして、人口減少、労働力不足、文化の違い等をどう感じているかを討論して頂きました。ロータリアンとしてそれをどう捉えるか、又一般市民の方にも会場で傾聴して頂きました。大変有意義な1部であったと思われました。

2部では第2500、第2510地区米山学友会会長の陶恵栄様に記念講演をお願いしました。陶恵栄様の熱量溢れるご講演には会場の皆さん強く関心を持って傾聴されておりました。その後第12グループ4クラブによる各クラブの活動報告の発表をして頂きました。それぞれのクラブにとって大変参考になったのではと思います。

3部にはお待ちかねの懇親会が行われました。苫小牧市内で日本語学校を経営されており、久恵寿司の畑中稔社長のご厚意で「マグロの解体ショー」を会場内でご披露して頂きました。会場内はマグロの解体ショーを近くで見たいと駆けつけて頂き大変盛り上がりました。その後「世界へ誘うマジックショー」をご覧頂き「目と舌」で楽しんで頂き、充分にご堪能して頂いたのかなと思っております。最後には「手に手つないで」を合唱して閉会となりました。

結びにあたり、この度のIMでは、苫小牧東RCがホストクラブとして企画・運営を務めさせて頂きました。多々至らぬ点もあったかと存じますが、どうか寛容な心でお許しいただければ幸いに存じます。

玉井ガバナーご夫妻をはじめとする多くのご来賓の皆様、そして全員登録をいただき、多大なるご協力を賜りました第12グループのロータリアンの皆様に、心より感謝と御礼を申し上げ、開催の報告とさせていただきます。





第 23 回 RYLA セミナーを終えて

国際ロータリー第 2510 地区
地区 RYLA 委員会

委員長

後藤 広隆
(函館五稜郭 RC)

第 23 回 RYLA セミナーを令和 8 年 5 月 15 日～ 17 日の 3 日間で開催致しました。

場所は洞爺湖町の財田キャンプ場・財田自然体験ハウスで参加者 10 名での開催となりました。

初日は、次の日以降に IM の出席などもお控えの中、わざわざ東京から直接、玉井清治ガバナーにお越しいただき『ロータリーについて』の卓話をさせていただきました。毎年のことですが、初めて会った同年代の仲間たちとのアイスブレイクは緊張した面持ちでのスタートとなりました。

2 日目は朝からユネスコ認定のジオパークに行き、噴火の被害を受け、現在は使用していない区域の散策に行きました。想像以上の状態を目の当たりにし、自然災害の怖さや、そこからの復興や共生を学ぶ機会となりました。午後には洞爺湖町長であり、洞爺湖 RC の会員でもあります下道英明町長に『災害時におけるリーダーシップ』についての卓話をさせていただき、人命を最優先にし、決定事項の重要性など未曾有の事態で必要とされるリーダーシップを学びました。その後に全員で洞爺湖でサップを体験しました。初めてサップを体験する方ばかりでしたが最高の天気の中、参加者たちの心がどんどん開いていき、徐々に『仲間』への変化が見えてきた瞬間でした。その後『思索の時間』『カウンスルファイア』を行い、じっくりと自分と向き合う時間を過ごしてもらい、いよいよ RYLA セミナーのメインでもありますグループワークの時間となります。今回のテーマは『自分たちが実際に体験してみたい RYLA セミナー』についてでした。いつ、どこで、何人を対象に、卓話、アクティビティ、グループワークのテーマ、費用など細かく話し合っていたいただきました。グループワークへの導入の違いから、2 グループ別々の壁に直面しながら真摯に向き合う姿勢を見せてくれました。

3 日目は古野重幸ガバナーエレクトに『いま求められるリーダーシップ』について卓話をさせていただきました。相手のことを思いやる気持ちを持つこと、常に前向きな姿勢を持ち続けることなど、古野ガバナーエレクトの実体験を交えたお話に参加者も深く感銘を受けていました。

その後、2 日目の夜から悩みに悩みながら形にし、2 グループともに素晴らしいフォーラム発表をしてくれました。互いに互いのフォーラム内容への質問をし合い、厳しい質問をし合いながらも本当に良い雰囲気参加者たちを見て、緊張した面持ちだった初日からフォーラム発表までの時間を全員で充実した時間としてくれたんだと RYLA 委員会として実感致しました。

玉井ガバナー、古野ガバナーエレクトをはじめ、洞爺湖 RC の皆様、直接 RYLA セミナーへ足を運んでくれた RYLA 委員会以外のロータリアンの皆様のおかげで今年も無事に RYLA セミナーを終了することができました。

RYLA 委員会を代表して心より感謝を申し上げます。

RYLA セミナーは皆様の地域、クラブの未来につながるものです。

是非一度足をお運びください。RYLA 委員会一同、皆様をお待ちしております。





国際交流ワークショップ inながぬま マオイ de モルック 2026

第7グループ

長沼ロータリークラブ 初代会長

清水 慧子



長沼 RC の国際交流は、創立当初からの悲願でした。

子供たちには、長沼町の町民であるとともに、世界の一員であることを認識してもらい、世界に羽ばたいて、活躍してもらいたいという思いから、国際交流フェスティバルを開催しました。

「長沼国際交流フェスティバル」は、地元の教育委員会をはじめ、長沼町、近隣 RC、青少年交換学生、米山奨学生など、多くの皆様に支えられて、長い間続けることができました。ちなみに、27 回目のフェスティバルには、青少年交換学生、米山奨学生など留学生関係者 40 名、学童小学生 90 名、中学生 20 名、高校生 50 名、総勢 250 名の参加をいただきました。

1993 年 6 月に第 1 回を開催し、27 回続いたフェスティバルもコロナの影響で 3 年間中断した後、再開しようとしたところ、長沼高校の生徒が企画委員として名乗りを挙げてくれて、新しい形の国際交流として出発することができました。

高校生は新しい考えでもってチャレンジしました。従来ほぼ半日かけて開催していたフェスティバルを 2 時間に短縮し、最初の 1 時間はフィンランド発祥のモルック、後半の 1 時間は留学生との話し合いとし、留学生との意見交換の場としました。スポーツで軽く汗をかいた後は互いに打ち解けて、各自の国の習慣の違いなどをあらためて理解し、国際交流の意義を互いに尊重する機会になりました。

開催までの企画会議は 4 回、あくまでも高校生を中心に何回かの議論の末、若い考えを尊重し、開催にこぎつけました。

新しい形になって 3 年目の今年はモルックを 1 時間、ブレスレットづくりを 1 時間、大変好評でした。モルック大会は 8 チームによるトーナメントで行われ、1～3 位のチームには高校生スタッフチョイスの日本のお菓子詰合せがチーム代表者に贈呈されました。ブレスレットづくりは、事前に当クラブ古川会員のレクチャーを受けた高校生スタッフが参加者につくり方を説明し、完成までをサポートしました。

「国際交流ワークショップ inながぬま」は 3 年間継続し、また新しい形に挑戦しようとしています。勇気をもって多感に挑戦するロータリー精神は次の世代へ受け継がれようとしています。



新会員のご紹介

(敬称略)

札幌手稲 RC



三丈 尊史

令和 8 年 4 月 24 日

書籍雑誌小売
(新聞小売業)

岩見沢 RC



大滝 正明

令和 8 年 5 月 14 日

電気供給

岩見沢 RC



波田野 愛

令和 8 年 5 月 21 日

シティホテル

※入会順

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

滝川 RC	吉田 英人	会員	(1 回)	4 月 24 日
滝川 RC	入井 浩樹	会員	(4 回)	4 月 24 日
札幌東 RC	和田 一仁	会員	(9 回)	4 月 10 日

米山功労クラブ

滝川 RC	第 41 回	4 月 24 日
-------	--------	----------

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

ポール・ハリス・フェロー

栗山 RC	笹谷 賢治	会員	4 月 30 日
-------	-------	----	----------



公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま

vol. 314

2026年5月13日
発行

1 「受けた恩を次世代へ」米山学友からの高額寄付

米山奨学生として受けた支援を、次世代の奨学生へつないでいきたい、との思いから、当財団へ500万円の寄付をしてくださった台湾出身の米山学友、ウィリアム ファンさん（1998-99 / 海老名樺RC）のメッセージをご紹介します。

【ウィリアム ファンさん】



奨学生時代、世話クラブの皆さまからの温かい歓迎とご支援を受け、「受けた恩を次世代へつなぐ」ことの大切さを学びました。この気持ちを形にした

いと思い、寄付させていただきました。当時を振り返ると、例会で受けた温かいおもてなしや、私の近況を常に気にかけてくださった会員の皆さまの優しさが深く心に残っています。

他者が自分に与えてくれたポジティブな影響を「忘れない」ことが何より大切だと思います。だからこそ、米山学友として寄付することに大きな意味があると思います。米山奨学事業が米山奨学生に注いでくれる支援に対し、私の小さな貢献が共感を呼び、他の学友たちもそれぞれの立場で恩返しを考えるきっかけになれば幸いです。それが結果として、日本と母国との架け橋を築くという米山奨学会の目的を前進させることにつながると信じています。

勉学に励む米山奨学生の皆さんには、米山奨学会やロータリー会員の皆さまが示してくれた善意とサポートを忘れないでいただきたいです。そしていつの日か、あなたなりの方法でその「恩」を次世代へとつないでいってください！

2 博士号取得状況

2025学年度に博士号を取得した奨学生は30人、学友は18人となり、これまでの累計は4,275人となりました（5月1日現在）。

米山記念奨学会では、博士号を取得された奨学生・学友の皆さまへお祝いとして腕時計を贈呈しています。裏ぶたに氏名を刻印した世界に一つだけの記念品です。なお、クラブ会員の皆さまに米山奨学事業の成果をご報告いただく機会として、原則としてクラブ例会での贈呈をお願いしております。これをきっかけに学友との交流が再開されたとの報告をいただくこともあります。博士号を取得された奨学生・学友がいらっしゃいましたら、当財団事務局までご一報くださいますようお願い申し上げます。



文字盤の裏に氏名を刻印

申請方法

- ・奨学期間終了後の取得でも対象です
- ・お届け先は、原則として世話クラブです（納品まで約2～3週間かかります）

「学位記の写し」もしくは「学位取得証明書」と、当財団書式「博士号取得報告書」の2点を世話クラブから米山奨学会へメールやFAXなどで送信（FAX:03-3578-8281 / email: alumni@rotary-yoneyama.or.jp）

3 寄付金速報 — 今年度も残り1カ月半 —

前年同期比

-2.4%

普 +0.5% 特 -3.9%

4月末までの寄付金は、前年同期と比べて2.4%減（普通寄付金：0.5%増、特別寄付金：3.9%減）、約2,800万円の減少となりました。

た。創立記念寄付として14クラブより計185万円の特別寄付をいただいたほか、100万円を超える大口寄付が3件ありました。皆さまからのご支援に、心より厚く御礼申し上げます。今年度も残りわずかとなりましたが、当事業へのご協力を賜りますようお願いいたします。

4 同じクラブから2人同時に紺綬褒章受章

第2760地区知立RCの大橋均氏と安井喜秀氏が、2025年11月22日付で紺綬褒章を受章しました。同一クラブから2人同時に受章されるのは、当財団では初となります。

4月22日の同クラブ例会にて、褒章伝達式が行われ、出席した当財団の神野重行常務理事か

ら褒章が伝達されました。

紺綬褒章は、公益のために私財を寄付し、その功績が顕著な個人または団体に対して天皇陛下より授与される褒章で、当財団は2018年9月に紺綬褒章の公益団体認定を受けています。受章された皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

5 米山奨学生を連れて奉仕活動へ

2月28日から3月3日にかけて、第2590地区横浜鶴見北RC会員を中心とする16人が、同クラブの米山奨学生の母国であるマレーシア・ペナン島を訪問しました。

現地では、障がい者就労支援施設を訪問し、活動資金を寄付したほか、バティック染めなどの活動を視察し、参加者も製作を体験。また、



滞在中にはマレーシア米山学友会の学友たちとの夕食会が開催され、翌週に控えていた同学友会総会へのお祝いを手渡すとともに、各地で活躍する学友たちの近況に耳を傾けました。

同クラブでは毎年、米山奨学生や学友と共に行う奉仕活動を継続しています。かつて世話をしたベトナムやタイの米山学友とも深い縁が続いており、現地での奉仕活動や、災害時の支援を学友に託すなど、強い信頼関係を築いているそうです。

参加した石渡宏衛会員は、「学友を介して、現地で本当に支援を必要としている方々に直接会うことができます。共に活動することでクラブ内の米山奨学事業への理解もより一層深まっています」と語り、学友と行う国際奉仕の意義を再確認する機会となりました。

6 米山学友がロータリー入会、そしてカウンセラーに

今回は、かつての世話クラブに入会し、今年度から米山奨学生のカウンセラーを務めることとなった韓瑜さん(2013-14/東京米山友愛RC)のインタビューをご紹介します。

【韓瑜さん】

米山奨学生としての期間終了後、学友会活動を通じてロータリーのつながりの強さに感銘を受け、クラブの先輩方にお声がけいただいたことで、入会を決めました。以前は支援を受ける側でしたが、会員となった今は「恩返しをしたい」という思いをより強く持っています。奨学期間終了から12年という月日を経て、再びロータリーの原点に立ち、「初心忘るべからず」を銘として再出発できることを嬉しく思います。今回、カウンセラーという役割を受けるにあたり、



米山奨学生と記念の一枚を撮る韓瑜さん(左)

本当に光栄です。奨学生時代に心に蒔かれた種が、歳月をかけてようやく開花したと感じています。私がバトンを受け取り、事業の伝承に貢献できることは大きな意義があります。留学経験という共通点を持つ奨学生をサポートし、共に成長しながら、日本と世界を結ぶ架け橋になれるよう尽力したいです。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281

E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp

URL : <https://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

編集担当：長尾(ながお)

“回転ドア”は止められているか

第1地域 ロータリー会員増強コーディネーター補佐 大高 司郎（高萩 RC）

会員を迎えても、やがて送り出してしまう。
その繰り返しとなっていないでしょうか。

会員増強に取り組んでいるにもかかわらず、クラブの手応えが変わらないとすれば、その要因は「増えていない」ことではなく、「定着していない」ことにあるのかもしれませんが。本年度より第1地域ロータリー会員増強コーディネーター補佐(ARMC)として活動し、間もなく一年を迎えますが、各地区・各クラブの取り組みに触れる中で、その傾向を強く実感しています。会員維持の観点から見ると、退会は12月末、3月末、6月末に集中する傾向があり、特に6月末に顕著です。この時期を経て、会員数が伸び悩むクラブも少なくありません。いわゆる「回転ドア」の状態にあると言えます。



会員が増えないのではなく、定着していないのではないか。
この視点に立つと、取り組むべき課題はより明確になります。

退会の背景には、時間的・経済的負担や期待とのギャップが挙げられます。しかし、その現れ方はクラブごとに異なります。したがって、「なぜ自クラブにおいて退会が生じているのか」を具体的に捉えることが重要です。さらに、在籍年数の長い会員の退会も見受けられます。長年クラブを支えてこられた方が離れるという事実は、クラブの在り方そのものを問いかけています。加えて、クラブそのものがRIから脱会する事例も増加傾向にあり、この問題はクラブ単位にとどまらず、組織全体の持続性にも関わる課題となっています。

この一年、「会員増強・維持」「衛星クラブ設立」「クラブ優秀賞へのチャレンジ」に関する関心は確実に高まっています。それにもかかわらず「回転ドア」が止まらないとすれば、問題は別のところにある可能性があります。

クラブは、会員を増やすことで強くなるのではなく、会員が残ることで強くなる。
この前提に立てば、まず取り組むべきことは明らかです。
自クラブにおける退会の傾向と背景を的確に把握すること。
その要因に真摯に向き合い、具体的な改善を積み重ねていくこと。

たとえば、入会後のフォローの在り方、例会への参加のしやすさ、会員相互の関係性、さらには経験豊かな会員がどのように関わり続けられているかなど、日常の運営を改めて見直すことが有効です。こうした取り組みの積み重ねこそが、「回転ドア」を止める確かな道筋となります。

一人ひとりが「このクラブにいて良かった」と感じ続けられるか。
その問いに、今こそ真摯に向き合うときではないでしょうか。

信頼をつなぐ公共イメージ

第1地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 細淵 雅邦（浦和 RC）

私たちロータリーの活動は、長年にわたり各クラブの皆さまが積み重ねてこられた奉仕と信頼の上に成り立っています。地域に根ざした誠実な取り組みの一つひとつが、今日の確かな評価と公共イメージを形づくってきました。ロータリー公共イメージコーディネーターチームの活動も、まさにその歩みの延長線上にあるものだと感じています。



近年は、情報発信の手段が広がり、各クラブの素晴らしい活動がより多くの方々に届くようになりました。

こうした発信は、ロータリーの認知を高めると同時に、本来の大きな課題である会員増強にもつながっていく重要な要素です。活動の魅力や価値が適切に伝わることで、新たな仲間との出会いが生まれ、ロータリーの輪が自然と広がっていく、その一端を公共イメージが担っていると感じています。その一方で、情報の広がりが大きくなった。

時代だからこそ、発信や対応のあり方に対する意識も、これまで以上に大切になってきています。ここで私が大切にしたいと考えているのが「危機管理」の視点です。

これは何か問題があるから取り組むものではなく、これまで築かれてきた信頼を守り、安心して活動を続けていくための基盤となるものです。適切な備えや意識の共有があることで、日々の活動はより安定し、外部からの信頼もさらに深まっています。公共イメージの取り組みと、こうした危機管理の意識は、いわば両輪の関係にあるのではないのでしょうか。活動の魅力をしっかり伝えていくこと、そしてその活動を安心して継続できる環境を整えること。この二つがそろうことで、ロータリーの価値はより確かなものとなり、結果として持続的な発展へとつながっていくものと感じています。

私たちロータリー公共イメージコーディネーターチームでは、オンラインミーティングを通じて、地区を越えた情報共有や意見交換を行っています。ここで共有される内容には、各地の実践に基づいた具体的な事例が多く含まれており、日々の活動に無理なく取り入れられるものばかりです。ブランドの適切な扱い方やメディア対応の基本、そして落ち着いた対応の大切さなど、こうした学びの積み重ねが、各クラブの活動をより安心で力強いものにしていくと感じています。

これまで築かれてきた信頼という土台の上に、公共イメージの取り組みと適切な備えを重ねていくこと。

その積み重ねが、ロータリーの魅力をさらに高め、新たなつながりを生み、より良い未来へとつながっていくものと確信しています。

“人が役を創り、役が人を創る“

第2地域 ロータリー財団地域コーディネーター 伊藤 靖祐（江南 RC）

ロータリー財団地域コーディネーター（以下 RRFC）は地区やクラブのロータリー財団活動をサポートする役割を担っています。また、地区ガバナー、ガバナーエレクトを対象とした数々の Learning Seminar を担当し、補助金の活用支援、寄付の推進やリソースの開発をしていきます。第1～3地域の RRFC は大変仲が良く連携が取れており、日本の目標を設定しています。会員一人当たり年次基金150ドル、ポリオプラス30ドル、また年次基金への寄付ゼロのクラブをゼロとする目標を立て、第2地域では能登半島地震時を除き、その目標はすべて達成しており、第2地域の全てのロータリー会員の皆様に感謝です。第2610地区の全てのクラブにおかれましては震災後の2025-26年度には年次基金の目標も達成されており、尊い寄付活動に敬意を表するばかりです。RI から第2地域の年次基金寄付ゼロクラブゼロは高く評価されています。



今後の財団活動に関する戦略として、RRFC はロータリー財団地域セミナー、クラブ活性化セミナーで提案させていただいております通り、①DDF の有効活用 ②恒久基金の戦略的運用を掲げています。①については、5年を超えて未使用である DDF は、ロータリー財団の World Fund へ自動的に組み入れられてしまいますので、各地区での戦略を立てて有効活用する必要があります。②については、恒久基金－シェアへの寄付は、計画的に積み立てていけばその運用益は毎年地区に分配されるので大きな運用財産となります。ロータリー財団（TRF）における恒久基金の運用利回りは年率7%を超えていますので、恒久基金を各地区の Mather Fund と捉えやはり地区の戦略が求められます。

最後になりましたが、本年6月末を以って第2地域 RRFC の3年の任期を全うすることができます。ロータリー財団地域セミナー、ロータリー研究会、クラブ活性化セミナー、ガバナーエレクト・ラーニングセミナー等で皆様と出会い、多くの経験をさせていただき、私もラーニングさせていただきました。すべての方との出会いと機会に感謝です。「人が役を創り、役が人を創る」という言葉があります。組織における責任と個人の成長の本質を突いた深い洞察だと思います。組織の中で人は役を創るわけですが、その役に新しい価値や独自のスタイルを取り込むことで役の主体性や革新性を織り込んでいきます。そして創られた役に就くことでその人は否応なしに変容を迫られ、結果として視座の変化と人の器が押し広げられていきます。たとえ最初は役という形を演じることから始まったとしても、その責務を果たそうと日々研鑽を積むうちに、いつしかその振る舞いが本質に変わっていきます。ロータリーはまさに「人が役を創り、役が人を創る」組織です。出会った全ての人に感謝し、この言葉で締めくくらせていただきます。ありがとうございました。

4月会員数・例会数報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			
			2025.7.1	2026.4.30	増減	内女性
1	深 川	3	28	28	0	2
	羽 幌	3	33	30	-3	2
	留 萌	3	22	23	1	4
	小 計		83	81	-2	8
2	赤 平	3	20	19	-1	3
	芦 別	2	27	27	0	1
	砂 川	4	41	40	-1	2
	滝 川	4	82	81	-1	7
	小 計		170	167	-3	13
3	美 唄	4	21	21	0	2
	江 別	4	32	35	3	2
	江 別 西	2	31	29	-2	1
	岩 見 沢	4	89	93	4	2
	岩 見 沢 東	2	9	9	0	0
	栗 沢	3	13	13	0	0
	栗 山	3	22	23	1	4
	当 別	3	27	28	1	3
	小 計		244	251	7	14
4	札 幌	4	105	113	8	3
	札幌はまなす	3	27	28	1	3
	札 幌 北	3	31	36	5	7
	札幌モーニング	4	34	33	-1	0
	札 幌 西	3	44	45	1	9
	札 幌 西 北	4	28	36	8	5
	札 幌 手 稲	4	31	31	0	3
	小 計		300	322	22	30
5	札 幌 東	3	95	92	-3	2
	札 幌 清 田	2	9	9	0	3
	札 幌 幌 南	4	59	60	1	6
	札 幌 真 駒 内	4	18	18	0	5
	札 幌 南	3	74	75	1	4
	札幌大通公園	2	13	13	0	3
	札幌ライラック	2	11	11	0	1
	新 札 幌	4	19	23	4	6
	小 計		298	301	3	30
6	岩 内	3	30	29	-1	1
	倶 知 安	2	34	33	-1	4
	小 樽	3	73	74	1	5
	小 樽 南	4	49	51	2	5
	小 樽 銭 函	3	10	10	0	1
	蘭 越	2	7	7	0	0
	余 市	3	38	39	1	4
	小 計		241	243	2	20

4月会員増減数

クラブ数	67
期首会員数	2,249人
当月末会員数(女性)	2,285人(203人)
増加会員数	36人

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			
			2025.7.1	2026.4.30	増減	内女性
7	千 歳	3	78	75	-3	10
	千歳セントラル	3	41	42	1	9
	恵 庭	4	41	43	2	4
	北 広 島	3	18	17	-1	3
	長 沼	4	16	16	0	3
	小 計		194	193	-1	29
8	え り も	2	16	15	-1	1
	三 石	3	10	10	0	0
	様 似	2	5	5	0	1
	静 内	4	55	53	-2	5
	浦 河	3	21	23	2	3
	小 計		107	106	-1	10
	9	伊 達	3	53	51	-2
室 蘭		3	26	29	3	4
室 蘭 東		4	29	28	-1	2
室 蘭 北		3	45	45	0	1
登 別		4	31	30	-1	2
洞 爺 湖		2	11	9	-2	0
小 計		195	192	-3	11	
10	函 館	4	66	65	-1	5
	函 館 亀 田	3	29	29	0	3
	森	2	30	30	0	2
	七 飯	3	14	14	0	0
	長 万 部	3	9	9	0	0
	函館セントラル	4	26	26	0	2
	小 計		174	173	-1	12
11	江 差	2	10	10	0	0
	函館五稜郭	4	46	53	7	2
	函 館 東	3	32	36	4	5
	北 斗	4	12	12	0	0
	小 計		100	111	11	7
12	白 老	3	28	31	3	4
	苫 小 牧	4	57	56	-1	4
	苫 小 牧 東	4	30	30	0	9
	苫 小 牧 北	3	28	28	0	2
	小 計		143	145	2	19
合 計		2,249	2,285	36	203	

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数18名(内女性会員1名)を含む
 ※札幌西北RCには札幌西北ひまわりロータリー衛星クラブの会員数11名(内女性会員3名)を含む
 ※函館五稜郭RCには五稜郭すずらんロータリー衛星クラブの会員数6名(内女性会員0名)を含む

地区カレンダー 6月

6月：ロータリー親睦活動月間

6月：ロータリー親睦活動月間			
1 (月)		16 (火)	
2 (火)		17 (水)	
3 (水)		18 (木)	
4 (木)		19 (金)	
5 (金)		20 (土)	
6 (土)		21 (日)	現新引継会議(札幌)
7 (日)		22 (月)	札幌南RC創立70周年記念式典
8 (月)		23 (火)	
9 (火)		24 (水)	
10 (水)		25 (木)	
11 (木)	インターアクト年次大会(室蘭)～12日	26 (金)	
12 (金)		27 (土)	
13 (土)	国際大会(台湾・台北)～17日	28 (日)	
	余市RC創立65周年記念式典	29 (月)	
14 (日)		30 (火)	
15 (月)			

訃報

謹んでお悔やみ申し上げますとともに
心からご冥福をお祈りいたします。



田島 隆男 会員（札幌 RC）

逝去日：2026年2月24日（91歳）

ロータリー歴： 1976年7月～1991年6月 赤平 RC に在籍
1991年7月1日 入会
会員増強副委員長他各委員会歴任
48年間 100%皆出席



菅 俊治 会員（伊達 RC）

逝去日：2026年5月6日（80歳）

ロータリー歴： 1990年10月4日 入会
1998年～99年 幹事
2004年～05年 会長
2010年～11年 ガバナー補佐

表彰関係： マルチプル・ポール・ハリス・フェロー（3回目）
米山功労者マルチプル（3回目）

ガバナー事務所からお願い

1. クラブの例会数・会員数報告について

毎月の最終例会から15日以内にガバナー事務所へ FAX かメールにて提出するようにお願い致します。

2. 変更等のご報告について

新会員、退会者、会員資格変更、クラブ事務所、例会場、例会日、時間の変更、会長、幹事等の移動の場合、所定の手続きによりご報告下さい。

新しく会員が入会された時は写真を添付の上、氏名、入会日、職業分類をお知らせ下さい。

また、会員にご不幸があった場合には、氏名、年齢、ロータリー歴、お写真を至急ご報告くださいますようお願い致します。

3. クラブの移動例会等について

地区ホームページにフォームがありますので、アクセスしてご連絡下さい。

地区ホームページ ⇒ 例会変更フォーム の順でアクセスできます。

（ホームページにアクセスが難しい場合は FAX、メールでお送り下さい）

4. ガバナー月信への原稿寄稿について

特にクラブの活動、トピックス、地域内の話題等、400字前後に写真 1～2 枚をご同封願えればと考えています。原稿締切り日は毎月5日です。（メールでのご連絡にご協力ください）